

ひと中心のまちづくりを 世界に通用するステージへ



—令和6年度施政方針から



仙台市長
郡 和子

初めに、令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた方々に対し心よりお見舞いを申し上げます。昨年度は、脱炭素先行地域への選定など、多くのプロジェクトが動き出したほか、防災環境都市づくりが国際的にも高く評価された年でした。こうした動きを確かなものとし、都市機能を高めるためには、コミュニケーションの活性化と果敢なチャレンジが重要です。新年度は、国内外に仙台を打ち出す絶好の機会です。国内外から選ばれる都市を目指し、ダイバーシティの視点からこのまちのあり様を見つめ直すため「仮称」ダイバーシティ推進会議」を立ち上げ、誰もが自分らしく輝ける環境を確立するとともに、最先端のリサーチコンプレックス形成に向け企業誘致を進めます。また、大学発スタートアップなど、若者の世界に向けた挑戦を応援していきます。「子育てが楽しいまち・仙台」

の実現に向けては、妊婦健康診査費用への助成を拡充するほか、不妊に関する検査と先進医療治療費用への助成を行います。さらに、男性の育児休業取得促進に向けた中小企業向け奨励金制度創設をはじめ、社会全体で子ども・子育てを支える体制の確立を推進します。また、脱炭素先行地域における取り組みを加速するとともに、企業の脱炭素経営を後押しするなど、まちの脱炭素化を強力に進めます。選ばれる観光都市を目指し、国内外でのトップセールスや国際会議の誘致を行うほか、安定的な財源を確保するため宿泊税導入に向けた調整を進めます。さらに、東北絆まつりの開催等を通じて、東北の交流人口の拡大を図ります。将来にわたって都市活力を維持するためには、「ひと中心のまちづくり」を世界に通用するステージへと押し上げ、人や投資を呼び込むことが重要です。持続可能で誰一人取り残さない「社会の包摂的成長」を実現していきます。

未来の担い手を育み、生き生きと学べる環境の充実

特別支援保育の対象を重度障害児等に拡充するほか、「仮称」子ども誰でも通園制度」の導入に向けた試行事業を行います。公立保



子どもが自発的に自由な遊びを実現できる場の普及に取り組んでいます

育所と小・中学校の給食については、物価高騰による食料料費の増加分を負担します。併せて、仙台子ども財団の事業を通じて、多様な主体との連携を深め、仙台での子育ての魅力を発信します。子どもの遊びの環境充実に向け、既存資源の活用やにぎわい創出につながる遊び場の検討を行います。また、学校や保育所等に芸術家を派遣する事業を実施します。

不登校支援では、在籍学級外教室「ステーション」を小学校へ拡大するほか、学びの多様化学校への通学やフリースクール等への通所支援、オンラインの居場所や学びの場の確保を行います。また、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に係る取り組みを強化します。このほか、学生の移動支援と公共交通の利用促進に向け、新たな学生フリーパス制度を導入します。

都市個性を生かした賑わい・活力の創出とグローバルな魅力の発信

成長意欲の高い中小企業を継続的・集中的に支援するとともに、



令和5年度に実施した沿岸部のループバス実証運行について、期間やエリアを拡大して続けます

多様な人材活躍に向けた後押しや中心部商店街のにぎわいづくりに取り組みます。産学官連携により回遊性向上のための自動運転の実証などを実施するほか、スマート農業をはじめとする新技術を使ったモデル実証事業を行います。交流人口拡大に向けては、新たな観光戦略を策定するほか、宿泊事業者の人材確保を支援します。また、全国・国際規模のスポーツ大会誘致を進めるほか、文化芸術活動への助成を行うとともに、多様な文化コンテンツを生かし、まちの活力向上を図ります。青葉山エリアにおいて、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の基本設計に着手するほか、勾当台・定禅寺通エリアでは、本庁舎等の再整備を着実に進めるとともに、一番町四丁目商店街の回遊性向上を図る取り組みなどを支援します。また、東部沿岸地域におけるループバスの実証運行や貞山運河の活用推進、せんだい農業園芸センターへの簡易宿泊施設の試行設置を行います。このほか、宮城総合支庁舎建て替えに

向けて基本構想を策定します。世界防災フォーラムへの参画等を通して、防災・減災や復興の取り組みを継続的に国内外に発信していきます。資源循環の推進においては、食品廃棄物をリサイクルするモデル事業のほか、デジタル技術を使ったごみ収集の最適化を図る実証実験に取り組めます。

安全・安心な暮らしを支え、自分らしく輝ける活躍の応援

女性登用に向けた啓発や人材育成支援により女性の活躍を一層後押しするとともに、性の多様性が尊重される社会の実現を目指し、理解促進のための取り組みやパートナーシップ宣誓制度の年度内導入に向けた検討を行います。また、映像通訳による多言語サービスを拡充するほか、障害のある方への差別解消・理解促進を図るため、ポータルサイトの構築や当事者との交流促進などに取り組めます。若い世代の定着に向けては、結婚により新生活を始める若年世代への支援を行います。

子ども食堂の運営団体への助成継続に加え、課題を抱える家庭の小中学生に対し、基本的な生活習慣の習得等を支援します。さらに、昨年度実施したひきこもりニーズ



障害のある方が講師となり、企業等に行う「障害理解サポーター養成研修」などを通して、障害理解を促進します

調査の結果を踏まえ、フォロワーシップや情報発信、居場所支援などを強化します。

また、パーソナルヘルスレコードの活用等による健康寿命延伸、デジタル機器を活用したフレイル予防などを展開するほか、敬老乗車証制度については、丁寧な説明に努めながら見直しを行います。救急隊の増隊や救急情報システムの機能強化を進めるとともに、医療提供体制の充実を図ります。福田町周辺等において、田んぼダムや流出抑制の実践・実証等により流域治水を推進するほか、宮城県による第五次地震被害想定調査の結果を踏まえ、今後の被害軽減に向けた行動計画を策定します。

◆ 新年度は、グローバルな視座に立ったまちづくりへの新たなチャレンジをスタートさせる画期となる1年です。笑顔と活力あふれる「The Greenest City」SENDAI」の実現に向け、力を尽くしてまいります。